

平成 25 年 5 月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成 25 年 1 月 11 日

上場取引所 東

上場会社名 五洋食品産業株式会社

コード番号 2230

URL <http://www.goyofoods.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長

（氏名）舩田 圭良

問合せ先責任者（役職名）取締役管理部長

（氏名）山北 俊明

TEL 092-332-9610

発行者情報提出予定日 平成 25 年 2 月 28 日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成 25 年 5 月期中間期の業績（平成 24 年 6 月 1 日～平成 24 年 11 月 30 日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は対前年同期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
25 年 5 月期中間期	537	—	△54	—	△64	—	△57	—
24 年 5 月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1 株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
25 年 5 月期中間期	△244.01	—
24 年 5 月期中間期	—	—

（参考）持分法投資損益 24 年 5 月期 ー百万円 23 年 5 月期 ー百万円

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
25 年 5 月期中間期	1,332	△55	△4.2	△234.74
24 年 5 月期	1,325	2	0.2	9.19

（参考）自己資本 25 年 5 月期中間期 △55 百万円 24 年 5 月期 2 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
24 年 5 月期	0.00	0.00	0.00
25 年 5 月期	0.00	—	—
25 年 5 月期（予想）	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成 25 年 5 月期の業績予想（平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 5 月 31 日）

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,517	23.3	101	115.2	77	—	83	552.9	349.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

4. その他

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理及び簡便な会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25 年 5 月期中間期	237,393 株	24 年 5 月期	237,393 株
② 期末自己株式数	25 年 5 月期中間期	50 株	24 年 5 月期	50 株
③ 期中平均株式数（中間期）	25 年 5 月期中間期	237,343 株	24 年 5 月期中間期	—株

※ 中間監査手続の実施状況に関する表示

この中間決算短信は、金融商品取引法に基づく中間監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく中間財務諸表の中間監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信（添付資料）3 ページの「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理及び簡便な会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 中間財務諸表	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(7) 重要な後発事象	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当中間会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に伴い、企業の生産活動や個人消費に持ち直しの動きがみられたものの、欧州債務危機を背景とした金融市場不安による円高の長期化、日中関係の悪化による経済への影響、厳しい雇用環境及び消費税率の引上げ決定による将来への不安感などにより、依然として先行きが不透明な状況にあります。

このような経営環境のもと当社は、「小回りの利いた『企画開発～生産～供給』の一貫した高品質なサービスをお客様にスピーディーに供給する」という経営方針のもと、お客様の目線で製品開発に取り組んでまいりました。その結果、大手百貨店に出店している洋菓子店と共同開発した「アンジュケーキセレクション」の販売を開始するに至ったほか、クリスマス商戦に向けた「X'mas イチゴのデコレーション」及び学校給食向けケーキ「祝のケーキ（あまおう）」など、合計17品の新商品を開発し、順次販売を開始いたしました。

また、地域イベントへの出店、本社工場での直販会の開催及び大手コンビニエンスストアでの試験販売の実施により認知度の向上に努めました。

一方で、当中間会計期間より新たに北米及びアジアへの輸出を開始するよう取り組んでまいりましたが、輸出に関する複雑な規制並びに日中関係の悪化による影響により、その開始時期を見直し平成25年初旬からの輸出開始を見込んでおります。

これらの結果、国内小売市場における売上高は堅調に推移しましたが、輸出開始の遅れをカバーするには至らず、当中間会計期間の売上高は537,274千円、営業損失は54,111千円、経常損失は64,642千円、中間純損失は57,913千円となりました。

なお、当社は冷凍洋菓子事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

また、当社は当中間会計期間より中間財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。（以下「(2) 財政状態に関する定性的情報 ②キャッシュ・フローの状況」においても同じ。）

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当中間会計期間末における流動資産は、前事業年度末と比べ10,876千円増加し、538,523千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少54,469千円、売掛金の減少20,272千円及びたな卸資産の増加72,783千円等によるものであります。

(固定資産)

当中間会計期間末における固定資産は、前事業年度末と比べ3,581千円減少し、793,792千円となりました。これは主に、固定資産の減価償却による減少25,509千円、投資有価証券の増加1,500千円及び破産更生債権等の増加14,439千円等によるものであります。

(流動負債)

当中間会計期間末における流動負債は、前事業年度末と比べ8,418千円減少し、475,723千円となりました。これは主に、買掛金の増加9,871千円、短期借入金の減少45,000千円及び1年内返済予定の長期借入金の増加30,878千円等によるものであります。

(固定負債)

当中間会計期間末における固定負債は、前事業年度末と比べ73,608千円増加し、912,307千円となりました。これは主に、長期借入金の増加70,914千円及びリース債務の減少2,839千円等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は、前事業年度末と比べ57,896千円減少し、△55,714千円となりました。これは主に、中間純損失の計上による繰越利益剰余金の減少57,913千円等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して 55,768 千円減少し、44,057 千円となりました。

当中間会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は 102,781 千円となりました。これは主に、税引前中間純損失 57,561 千円を計上したことのほか、減価償却費 25,509 千円、たな卸資産の増加 72,783 千円及び仕入債務の増加 9,871 千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 6,031 千円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出 6,900 千円、同払戻による収入 3,501 千円、有形固定資産の取得による支出 1,152 千円及び投資有価証券の取得による支出 1,480 千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は 53,044 千円となりました。これは主に、短期借入金の純減少額 45,000 千円、長期借入れによる収入 140,000 千円、長期借入金の返済による支出 38,208 千円等によるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

平成 25 年 5 月期の通期の業績予想につきましては、平成 24 年 7 月 13 日に公表いたしました「平成 24 年 5 月期 決算短信」における業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

（1）中間財務諸表の作成に特有の会計処理及び簡便な会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は当中間会計期間において営業損失 54,111 千円、経常損失 64,642 千円、中間純損失 57,913 千円を計上しており、営業活動によるキャッシュ・フローも 102,781 千円のマイナスを計上しております。

これにより、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、当該重要事象等を改善すべくその対応策を以下のとおり推し進めております。

① 継続的な営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスに対する対応

当社は、クリスマスケーキの販売に伴い 12 月が売上高のピークとなるため、12 月のクリスマスケーキの販売数量を見込んで、期首より計画的に生産する方針をとっております。よって、中間会計期間ではたな卸資産が増加する傾向にあります。

また、当中間会計期間においては、国内小売市場における売上高は堅調に推移した一方で、新たに北米及びアジアへの輸出を開始するに至りませんでした。

これらにより、営業活動によるキャッシュ・フロー 102,781 千円のマイナスとなっております。

当該状況を解消するために当社は、組織改編により生産体制を効率化し、原価率の改善を図っております。また、国内市場においては、大手コンビニエンスストアでの試験販売の結果が一定の評価を得るに至り、本格的な販売に向けての取り組みを開始しております。一方、海外市場においては、アジアでの販売網を確立するため、アライアンス先の選定に着手しております。

なお、北米及びアジアへの輸出は、開始時期が遅れはしたものの、平成 25 年初旬より開始できる見込みとなりました。

上記により、収益性を改善し、安定した利益体質への転換を図ってまいります。

② 1 年間の資金繰りへの懐疑性に対する対応

基本的には、自社努力により余剰キャッシュ・フローを生み出す方針であります。

また、財務基盤の強化を図るとともに、資金繰りの安定化を図ることを目的として取引金融機関に対し一層の協力と支援を要請し、理解を得ております。また、資金調達手段の多様化をも進めることにより、利益体質への転換と資金面での安定化を更に推し進めてまいります。

以上の対応策は実現性が十分あるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 5 月31日)	当中間会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	126,039	71,569
売掛金	275,270	254,997
電子記録債権	—	6,747
たな卸資産	129,014	201,798
その他	9,349	8,331
貸倒引当金	△12,026	△4,921
流動資産合計	527,647	538,523
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	445,855	443,549
機械及び装置（純額）	108,094	101,213
土地	146,157	146,157
リース資産（純額）	12,132	11,652
その他（純額）	43,463	41,270
有形固定資産合計	755,704	743,842
無形固定資産	15,021	12,832
投資その他の資産		
投資有価証券	150	1,651
破産更生債権等	1,051	15,490
投資不動産（純額）	18,773	18,597
その他	7,725	10,172
貸倒引当金	△1,051	△8,794
投資その他の資産合計	26,649	37,117
固定資産合計	797,374	793,792
資産合計	1,325,022	1,332,316

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 5 月 31 日)	当中間会計期間 (平成24年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	94,495	104,367
短期借入金	240,000	195,000
1 年内返済予定の長期借入金	68,264	99,142
リース債務	7,426	7,873
未払法人税等	1,875	1,206
その他	72,080	68,133
流動負債合計	484,141	475,723
固定負債		
社債	36,000	36,000
長期借入金	779,997	850,911
リース債務	17,105	14,266
退職給付引当金	5,595	5,595
その他	1	5,535
固定負債合計	838,699	912,307
負債合計	1,322,840	1,388,031
純資産の部		
株主資本		
資本金	162,407	162,407
資本剰余金		
資本準備金	122,407	122,407
資本剰余金合計	122,407	122,407
利益剰余金		
利益準備金	2,150	2,150
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△284,682	△342,596
利益剰余金合計	△282,532	△340,446
自己株式	△90	△90
株主資本合計	2,192	△55,721
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10	6
評価・換算差額等合計	△10	6
純資産合計	2,181	△55,714
負債純資産合計	1,325,022	1,332,316

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

		当中間会計期間 (自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)
売上高		537,274
売上原価		395,625
売上総利益		141,649
販売費及び一般管理費		195,760
営業損失(△)		△54,111
営業外収益		2,036
営業外費用		12,567
経常損失(△)		△64,642
特別利益		11,167
特別損失		4,086
税引前中間純損失(△)		△57,561
法人税、住民税及び事業税		352
法人税等合計		352
中間純損失(△)		△57,913

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純損失 (△)	△57,561
減価償却費	25,509
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	638
受取利息及び受取配当金	△17
支払利息	11,262
有形固定資産除却損	3
補助金収入	△11,167
売上債権の増減額 (△は増加)	△914
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△72,783
その他の資産の増減額 (△は増加)	1,008
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,871
未払金の増減額 (△は減少)	△4,121
その他の負債の増減額 (△は減少)	△3,363
小計	△101,635
利息及び配当金の受取額	17
利息の支払額	△11,599
法人税等の支払額	△731
補助金の受取額	11,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	△102,781
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6,900
定期預金の払戻による収入	3,501
有形固定資産の取得による支出	△1,152
投資有価証券の取得による支出	△1,480
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△45,000
長期借入れによる収入	140,000
長期借入金の返済による支出	△38,208
リース債務の返済による支出	△3,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	53,044
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△55,768
現金及び現金同等物の期首残高	99,825
現金及び現金同等物の中間期末残高	44,057

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

当社は、冷凍洋菓子事業の単一セグメントであるため、セグメント情報については記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。